

株式会社 テクノスジャパン 第3回ものづくり日本大賞優秀賞受賞

「生体信号利用の意思伝達装置を世界で初めて商品化、福祉分野に大きな希望を与えた」として第3回ものづくり日本大賞優秀賞を受賞した(株)テクノスジャパン。応募のきっかけは姫路ものづくり支援センターからの勧め。

ものづくり日本大賞応募のきっかけと対象の製品・技術についてお聞かせください。

2009年1月初めに新聞に掲載された弊社の記事を見た姫路ものづくり支援センターの毛利ディレクターから勧められたのが応募のきっかけです。

対象となる製品は生体信号を利用した意思伝達装置(MCTOS:マクトス)です。手足が不自由で、声も出せない。でも意識ははっきりしている。そういう重度障害があり、他者とのコミュニケーションが困難な人でもコミュニケーションが可能となる装置です。植物や動物には生きている限り発し続ける生体信号と言うものがあります。例えば、脳波や筋肉を動かす時には微弱な電位が発生します。これを感じて電気信号に変えることで装置を制御します。99年に世界に先駆けて開発しました。

応募に際して、姫路ものづくり支援センターの支援はどうだったのでしょうか？

応募書類の作成について、装置の内容等具体的な部分は自分の方で纏めましたが、全体的なストーリー作りや添削等では毛利ディレクターに随分お世話になりました。また、この賞は代表者だけでなく、応募者個々に表彰状をいただけるので応募書類には開発に関わった社員の名前も全部入れるようにアドバイスを受けてました。応募は自薦ではなく推薦方式ですので、姫路商工会議所から推薦していただきました。

受賞の効果、反響等はどうだったのでしょうか？

受賞の一番のメリットとしては会社のステータスを上げたということでしょうか。

弊社は2006年が初年度の「元気なモノづくり中小企業300社」に選定されていますが、それと共にこの「ものづくり日本大賞優秀賞」を会社のPRに利用させていただいています。この賞を

受賞したからかどうかはわかりませんが、その年の11月にNHKから取材の申し込みがあり、翌年の1月にはNHKの経済情報番組「ルソンの壺」で放映もされました。また、先程も言いましたが、社員個人毎に経済産業大臣名で表彰状をいただいたので、各人のモチベーションアップにも繋がっていると思います。

姫路商工会議所や姫路ものづくり支援センター利用について、読者にアドバイス等あれば…。

商工会議所やものづくり支援センターでは講演会やセミナー等色々な勉強会をやっているし、各種補助金や顕彰制度の情報も持っているので、会議所へ勉強しに行くのもいいのではないかな。ものづくり支援センターは『よろず相談窓口』といっているのですが、こんなことできないか、こんな情報ないかと何でも問合せてもいいのではないかな。とにかく、自分から情報を取りに行かないと…。

最後に「ものづくり」への思いや御社のこと等をもう少しお聞かせください。

「作りたい物を作る。」これがものづくりの原点です。弊社は「世の中に無い物」を独自開発し、自社ブランドで販売しています。本案件もそのひとつです。販売市場は非常に小さいですが、「無くてはならぬ物」として、人の役に立っていることは「ものづくり冥利」に尽きます。

「老・農・環・心」をキーワードに、「人にたよらず とにかく やってみよう! やってみな わからん!」のモットーの基、今後も「世界のオンリーワン製品」を多く作り、「世の中に無くてはならない企業で有り続ける」ことに果敢にチャレンジしていきます。

【概要】

株式会社 テクノスジャパン
〒670-0947 姫路市北条1丁目266
TEL 079-288-1600



- ①(株)テクノスジャパン 代表取締役 大西秀憲氏
- ②北条にある社屋の外観
- ③大西氏と社員の皆さん(経済産業大臣より個々に表彰状を授与)
- ④大西氏と姫路ものづくり支援センターのディレクターたち